

日本の学童ほいく

全国学童保育連絡協議会

普及拡大 ニュース

みんなで読もう！ 目標 3万4000部

子どもを学童保育に通わせる保護者と、子どもたちといっしょに毎日過ごしている指導員が書き手となり、働きながらの子育てを応援し、学童保育の充実の願いをこめてつくられている月刊誌です。みんなで読んで、語って、楽しみながら、よりよい学童保育をつくっていきましょう。

2024年1月11日

元気が出る
みんなの
取り組みを
ご紹介

楽しく普及拡大

ほいく誌を学童保育運動の柱に！という方針を掲げて取り組もう！

ほいく誌を通して学童保育理解を広げていこう・仲間を増やしていこう！

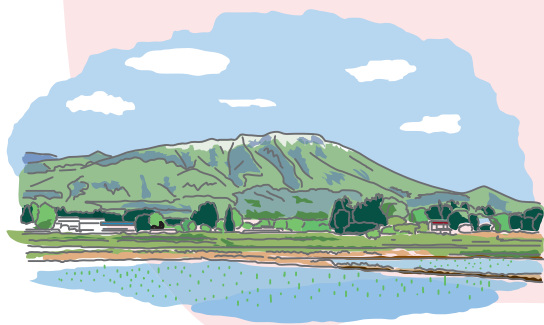
『日本の学童ほいく』を学童保育運動の柱に!! を方針を掲げて!

岩手県連協では数年前から『日本の学童ほいく』を学童保育運動の柱に!! という方針を掲げて県内の各市町村連協から1名ずつ選出されたメンバーで構成する「ほいく誌プロジェクト」をつくり、地域の購読数・読者の傾向の調査を基に、普及拡大と活用について活動しています。2023年度から方針をより具体化・実行していくため、役員会内の組織として新たに「ほいく誌部」を立ち上げ、活動をはじめました。プロジェクトの活動から引き続き、年度毎の活動方針として①購読のないクラブにはクラブで一冊購読してもらう ②指導員は全員購読しよう ③保護者役員・運営者は全員購読しよう ④全世帯購読しよう ⑤行政・議員・小学校 その他に購読をすすめようということ、段階的にすすめていくこと。購読数・読者の傾向を把握しながら具体性・実効性を持ち取り組みを進めていくことを確認しました。また、加盟学童保育純増プラス1冊で県連協純増100冊を目標!! にして取り組みをすすめています。

岩手県 の 取り組み

ほいく誌を通して学童保育の理解者を増やしていこう!

ほいく誌部の話し合いでは、購読をやめてしまった学童保育への働きかけの困難さや全世帯購読をしている学童保育でも読まれていない現状、保護者の購読がすすんでいない現状があることなどの課題が出されるとともに、指導員がおススメ記事を玄関に掲示しながら、日常的な共通の話題にしていくことや、モニター・子どもたちの絵や作文を投稿し掲載されること・本誌づくりに参加することで、ほいく誌の到着を心待ちにする子どもの様子も報告され、交流・情報共有を行いながら活動しています。今後、他県の取り組みからも貪欲に学ぶ姿勢を持ち、「本を売る」ではなく、「本を通して学童保育の理解者を増やしていく」=学童保育の仲間作りの活動として、一冊一冊地道に普及拡大をしていく必要があると感じています。



日本の学童ほいく 2024 1月号

特集 学校と学童保育 —— 子どものための連携・協力を

「子どもの生活の連続性を守る」「子どもの生活環境を広げる」「子どもの理解を深める」うえで、学校と学童保育の連携・協力は欠かせません。今回の特集では、各地の連携・協力の実際を、交流し、よりよい関係づくりのために大切にしたい視点を学びあいます。



日本の学童ほいく

普及拡大 ニュース

みんなで読もう目標 3万4000部

子どもを学童保育に通わせる保護者と、子どもたちといっしょに毎日過ごしている指導員が書き手となり、働きながらの子育てを応援し、学童保育の充実の願いをこめてつくられている月刊誌です。

元気が出る
みんなの
取り組みを
ご紹介

読んで実感！ 読者を広げる 7つの取り組み

「学童保育での生活の様子を知ってもらうために、新1年生の保護者に4月号をプレゼント。購読継続につなげている」



保護者 Aさん



保護者 Bさん

「指導員さんの記事を読み、子どもたちのためにいろいろ考えてくださっているんだと感じました。学童保育に通うことにしてよかったと思っている」

「保護者の方の記事を読むと、『皆、同じようなことで悩んだりしている。自分だけじゃないんだ』と勇気づけられる」



保護者 Cさん



指導員 Dさん

「自ら学ぶために購読するとともに、パート職員も含め、学童保育の役割と指導員の仕事について共通理解とするために、職員会議などで活用している」

「毎号、おすすめの記事のページに、コメントをひとこと書いた付箋をつけて、配布している」



指導員 Eさん



連絡協議会会長 Fさん

「本誌モニターになった保護者の方から、『係として引き受けたのがきっかけだったが、学童保育の大切さを知ることができてよかった』と言ってもらえた」

「読み合わせの会をオンラインで開催中。感想を出しあうことはもちろん、さまざまな悩みも語りあうことができた」



保護者会会長 Gさん

2019年に長崎県大村市学童保育連合会の会長となり、その時から『日本の学童ほいく』を購読しはじめました。連合会は保護者会運営の集まりで、私も現役の保護者です。子どもが学童保育にお世話になった当初は「保育園の延長」との意識だったことから母親任せにして、学童保育のことはまったく理解できていませんでした。それがひょんなことから会長を引き受けることとなり、少しでも知識を得ようと頼りにしたのがこのほいく誌でした。ほいく誌で学童保育の基本を教わり、他の保護者会運営の現状を知って、共感をしたり、楽しいイベントの話などうらやましいなあと思うこともありました。

そんな状態からあのコロナ禍がやってきました。最初のころは運営を継続することに必死で手探り状態でした。正直あのころはほいく誌を読んでいる余裕もなかったと思います。今回この記事を書くことになって、昔のほいく誌を見直すと、付箋がいろいろなところに貼ってありました。特に保護者会のあり方や大切さの記事を読んでいた。当時は保護者会が開催できず、指導員と保護者同士の会話がほとんどない状態での運営であったことを、そしてあらためて保護者会の大切さを感じていた時期だったと思います。これからもほいく誌を参考にして、子どもたちが笑顔で過ごせるような学童保育となっていくよう読みつづけていきたいと思っています。

私と「ほいく」誌

読者リレー執筆・今月は長崎県大村市から
全国役員・保護者の小平善幸さん